

一 妙法蓮華經の五字を眼と云ふ事

仰せに云はく、法華第四に云はく「のうげごぎ 仏滅度後能解其義、しげん 是諸天人世間之眼」云云。此の經文の意は法華經は人・天・二乘・菩薩・げんもく 仏の眼目なり。此の眼目を弘むるは日蓮一人なり。此のまなこ 眼には五眼あり。所謂げん 肉眼・天眼・慧眼・法眼・仏眼なり。此の眼を抉 くりて別の眼を入れたる人あり。所謂弘法大師是なり。法華經の一念三千・即身成仏の諸仏の開眼を止めて真言經に有りと云へり。是あに 豈法華經の眼をくじる人に非ずや。又此の眼を閉じふさぐ人あり。所謂法然上人是なり。捨閉しゃへい の閉の文字は眼を閉ふさ ぐ義に非ずや。所詮のうく 能弘の人に約しては日蓮等のたくい 類世間の眼なり。所弘の法に随へば此の大乗經典は是諸仏の眼なり。所詮眼の一字は一念三千の法門なり。六万九千三百八十四字を此の眼の一字に納めたり。此の眼の字頭はれて見れば煩惱即菩提・生死即涅槃なり。今末法に入みそう って眼とは所謂未曾有の大曼荼羅なり。此の御本尊より外に眼目無きなり云云。